アニコム ホールディングス 2027年3月期 第2四半期 決算説明会 Q&A サマリー

2026.11.10

Q：今回のタイミングで保険料改定を決定した背景、および平均約6.3%の改定幅とした根拠について伺いたい。

A：これまで予防の推進による損害率の改善を優先してきたものの、損害率の改善には一定の時間を要することに加え、競合他社の保険料の水準等も踏まえ、今回の改定を決定した。改定幅については、大幅な改定による契約者の離脱や、それに伴う損害率悪化のリスクを考慮し、保険商品全体で平均約6.3%が妥当な水準と判断した。なお、若齢層の引き上げ幅を抑える一方、高齢のペットについては20%程度引き上げるなど、年齢別に調整している。

Q：今回の保険料改定による収益改善効果について、契約者の離脱を織り込んだ試算となっているのか伺いたい。

A：今回の保険料改定による収益改善効果については、一定程度の契約者の離脱を織り込んでいる。過去の保険料改定時の実績や、ペットの加齢に伴う保険料上昇に対する契約者の反応等を踏まえて試算している。

Q：今後もインフレ等による損害率上昇が続いた場合、追加的な保険料改定を実施する可能性について伺いたい。

A：今後は今回の保険料改定に対する契約者の反応を見極めながら、引き続き予防施策による損害率改善を優先する方針である。一方、損害率が想定以上に悪化した場合には、追加的な保険料改定も検討していく考えである。

Q：現在のペット保険の保有契約におけるペットの平均年齢について伺いたい。

A：保有契約におけるペットの平均年齢は、正式には開示していないものの、概ね5歳程度である。今後、改めて開示することも検討していく考えである。

Q：その他有価証券の含み損が 38 億円まで拡大している背景、および今後の対応方針について伺いたい。

A：含み損拡大の主因は、金利上昇に伴う外国債券 ETF の価格下落によるものである。今後は金利動向や資産運用収益とのバランスを踏まえながら、一部売却も検討し、外国債券 ETF の保有残高を段階的に見直していく方針である。

Q：ESR（経済価値ベースのソルベンシー比率）の管理目標 210%の見直し状況、および追加的な自己株式取得に対する考え方について伺いたい。

A：ESR の管理目標 210%については、初回開示にあたり、他社の水準等も踏まえて設定した側面がある。現在、当社グループにとって適正な水準について議論を継続しており、管理目標の見直しも含めて検討している。また、自己株式取得についても資本配分の選択肢の一つと認識しており、成長投資とのバランスを踏まえながら検討していく考えである。

Q：『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』について、先行する高度医療施設と比較して収益化に時間を要している背景、および今後の見通しについて伺いたい。

A：JARVIS 東京は開院から約 1 年と事業開始からの期間が短く、先行投資の回収途上にあることが収益化に時間を要している主な要因である。一方、先行企業は 10 年以上の事業運営実績があり、投資回収の進捗に違いがあると考えている。今後は計画に沿って売上を拡大し、収益性の改善を図っていく方針である。

Q：『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』以外の既存動物病院について、今後の閉院・事業縮小の方針およびその規模感について伺いたい。

A：既存動物病院については、今後も収益性や運営体制を踏まえた見直しを継続する方針である。一方、大半の病院は安定的に運営できており、短期間で大規模な整理を進める考えはない。今後は収益性や運営体制に課題のある病院を中心に、個別の状況に応じて段階的に見直しを進めていく考えである。

Q：シムネットにおけるペットの販売価格が下落している背景について伺いたい。

A：ペットの販売価格については、シムネットに限らず、ペットショップにおいても低下傾向にある。物価高に伴う消費者の購入意欲の鈍化により需要が伸び悩む一方、供給量は大きく変わっておらず、需給バランスの変化によって市場全体の販売単価が下落していると認識している。